



JRC 千葉

2025
Vol.17



令和6年度 千葉県青少年赤十字 国際交流派遣(ネパール国)

特集

国際・国内交流派遣プログラム





学校(園)で活かせる

青少年赤十字のプログラム

学習で活用できるプログラム

学校の希望に応じた体験活動を実施することができます。

体験活動を通じて、児童生徒に「命と健康の大切さ」を伝え、相手に対する思いやりを行動に移すことができる子供の育成に活用できます



- 救急法講習会 (AEDの使い方、心肺蘇生、三角巾を使った応急手当等)
- 水上安全法講習会 (着衣泳)
- 福祉体験プログラム (高齢者体験、車いす体験、点字体験)
- 各種講話 (防災について、ボランティアについて、国際理解について)
- 職場体験、インターンシップの受け入れ

学習プログラムの詳細はこちら ▶



活動に活かせる資料等の提供

青少年赤十字の実践目標に関する学習や防災教育に役立つ教材を提供することができます。

教材はホームページからダウンロードすることができます。



充実した資料と学習サポート

青少年赤十字では、体験活動等を実施するための豊富な人材や学習資料を用意しています。



- 救急法等講習会の指導員派遣
- 各種講演会の講師派遣
- 体験活動の講師・補助者 (赤十字ボランティア) 派遣



- 高齢者疑似体験セット (28セット)
- 白杖と視覚障がい体験ゴーグル (10セット)
- 点字盤セット (37面)
- ボッチャセット (2セット)
- ボッチャコート (折りたたみシート2面)
- ゴールボールセット
- ダンボールバット・パーテーション など



青少年赤十字 (Junior Red Cross) では、さまざまなプログラムが用意され、子どもたちの考え方や行動力、社会性を広げます。

総合的な学習 (探究) の時間や教科の学習、部活動、学級・児童会・生徒会・委員会活動等の様々な場面で活用してみませんか？

赤十字主催のプログラム

児童生徒向け研修会・交流会

他校の児童生徒と交流・学習し、共に高め合うことができます。



- リーダーシップ・トレーニング・センター
- スタディー・センター
- 高校メンバー協議会



指導者向け研修会

青少年赤十字が長年培ってきたノウハウを指導者に提供しています。



- 教師のための指導力アップセミナー
- 青少年赤十字指導者研修会 など



国際理解教育への活用

赤十字のネットワークを活かし、国内外を視野に入れた活動や、海外メンバーの受け入れなどを行っています。



- 国際交流派遣
- 国際交流受入
- 一円玉募金を通じた海外への支援

国内交流派遣 (小学生メンバー対象)

※佐賀県のメンバーとの交流を実施しています。



JRCを経験した子どもたちの声



友達の気持ちを考えて行動します！



学校や家で自分ができることを実行しています。



生きる力

文部科学省 学習指導要領

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切だと示されています。その中で次の充実化がうたわれています。

体験活動の重視

学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。

- 赤十字の救急法等講習会の活用
- 児童生徒向け研修会・交流会の活用
- 福祉体験プログラム

道徳教育の充実

道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

- 地域の赤十字ボランティアとの福祉体験プログラム等の学習サポートを通じた相互交流

青少年赤十字の「実践目標」と「態度目標」

児童生徒の「生きる力」の充実と実践に青少年赤十字が活用できます。

実践目標 「生きる力」の充実化

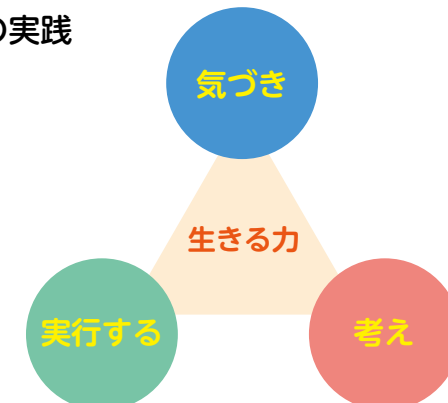
バランスよく育てる教育方針

- 『健康・安全』
生命と健康を大切にする
- 『奉仕』
社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する
- 『国際理解・親善』
広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う

態度目標 「生きる力」の実践

活動における指針

- 『気づき』
自分の生活や社会のニーズに気づく
- 『考え』
原因と解決の方法を考える
- 『実行する』
問題解決のための具体的な行動を実行・評価・反省する。



活動紹介

高校メンバー協議会

年2回、採用校の高校生が県内各地から集まり、仲間との交流を通じて「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の学習・実践活動を行っています。会の企画・運営は毎年立候補した高校生メンバーが担っています。

令和6年度のテーマは「医療の現状と健康増進」

第1回

災害医療について、成田赤十字病院より看護師長を迎え、災害医療のお話を聞きました。

第2回

「高校メンバー協議会」と「千葉県青少年赤十字のつどい」を合同で開催し、小学生・中学生・高校生が一堂に集い、非常食炊き出し体験や赤十字施設見学（義肢製作所、血液センター、救護倉庫、献血バス等）、成田赤十字病院より管理栄養士を迎え、健康的な体をつくるための食事についてお話を聞きました。



指導者向け研修会

学校づくりや子どもの育成等に役立てていただくための研修会を実施しています。

教師のための指導力アップセミナー

3日間にわたり開催する研修会です。青少年赤十字が培ってきた「グループ・ワークの理論と実践」を研修の中心に据え、学級経営や教科指導に活かせる、子どもたちが自主的、意欲的に取り組むための手立てを体験しながら研修します。

青少年赤十字の各種行事・研修会については千葉県教育委員会の後援を受けており、学校長の許可をいただければ「2年目3年目の選択研修」や「中堅教諭当資質向上研修の選択研修の自主研修」として活用いただけます。ぜひご参加ください。



リーダーシップ・トレーニング・センター指導者研修会

県内各地区でリーダーシップ・トレーニング・センター（以下トレセン）指導に関わる先生方に、指導経験豊富な先生から、講座の特徴や組み立て方などをお伝えします。

パラスポーツ体験

福祉や防災に関する講演や体験プログラムを実施できます。



ボッチャ



ゴールボール

【国際】

訪問先
期間
派遣メンバー

ネパール国
令和6年7月29日～8月3日(4泊6日)
団長・副団長・中学生4名・高校生4名・赤十字職員2名



千葉県青少年赤十字国際交流派遣団 団長 鞠子正弘
今回の派遣の目的は、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の具体的事業として、日本赤十字の「教育等支援事業」の対象国であるネパールを訪問して、海外の赤十字のメンバーと交流し、広く世界の青少年赤十字の活動・実践を知ることでした。
学校訪問では、校種の違う3校に行き、どの学校も精一杯歓迎をしてくれました。交流会や今回の国際交流派遣事業全体を通して、私自身が強く感じたのは、中学生・高校生のコミュニケーション能力の高さ・力強さと、初めての異国の地で安心して活動できたのも赤十字社のネットワークが世界中に張り巡らされているということです。



千葉県青少年赤十字国際交流派遣団 副団長 清宮柚葉
ネパールの皆さんのような豊かな心が育つのは、人との関わりを大切にすることに由来するのではないかと思います。日本に足りないものは何か、考えさせられました。そして目の前にいる生徒達に世界に目を向けるよう、伝え続けていきたいです。



ネパールのメンバーはとても熱心に活動をしていて、感銘を受けました。現地では、コミュニケーションをとるのが難しく、英語の能力は勿論、初めて身振り手振りの重要性を実感しました。ネパールという国を知ることによって視野と世界が広がりました。



この海外派遣で学べたことは、世界の広さです。街を歩く人々の振る舞いやふとしたときに感じる匂いから、日本にはない日常がここでは営まれていると感じました。このことは国際化する現代の世界を考える手がかりの一つになりました。

【国内】

訪問先
期間
派遣メンバー

佐賀県・熊本県
令和7年2月14日～16日(2泊3日)
団長・小学生6年生8名・赤十字職員



千葉県青少年赤十字国内交流派遣団 団長 鈴木美映子
国内交流派遣では、スタディセンターを終了した千葉県内の小学生8名と日本赤十字社発祥の地である、佐賀と熊本を訪問してきました。佐野常民生誕の地である佐賀県では、中川副小学校の5年生と交流し、佐野常民記念館で日本赤十字社の前身である博愛社の設立までの様子を学びました。熊本県では、田原坂西南戦争資料館、熊本城、日本赤十字社熊本県支部や阿蘇を訪れました。
選抜されてから派遣までの日数が少ない中、伝えたいことを整理し、それぞれが準備をして持ち寄った交流での発表はとても立派でした。また、それぞれの見学先での学びの姿勢も真剣で、ひとりひとりが国内交流派遣の目的をよく理解し臨んだ結果だと思っています。



私は三日間の国内派遣で、熊本地震の被災地での活動を学びました。
とても勉強になったし、楽しかったので、また訪れたいです。



この三日間を通して、今まで知らなかったことや知っていたこともさらに深ぼりができました。
今後の生活に生かしたいです。



中川副小学校の5、6年生の人達が佐賀県の生物や食べ物、佐野常民のことについてくわしく教えてくれたので、よく知ることができました



三日間の国内派遣で一番心に残ったのは、熊本城の見学です。
あまり意識していなかったところにも意味などあって勉強になりました

国内交流派遣紹介



私は期待と共に大きな不安を抱えてネパールへ飛び立ちました。ですが、心強いメンバーと助け合い、日本とネパールとの違いを学ぶとても貴重な経験になりました。現地の方々とコミュニケーションがとれて、とても楽しかったです！



日本のあたりまえは世界共通ではないことを実感しました。日本との衛生環境の差を体感しつつも、現地の方の温厚な人柄に魅了されました。特に、ネパールメンバーの自国の問題と向き合う姿は、見習いたいと強く感じました。



印象に残ったことは現地の方の国民性です。ネパールの方々は、初対面の私たちに対して明るく笑顔で、言語の壁がある中でもコミュニケーションが取りやすかったように感じます。何より私自身、会話がとても楽しかったです。



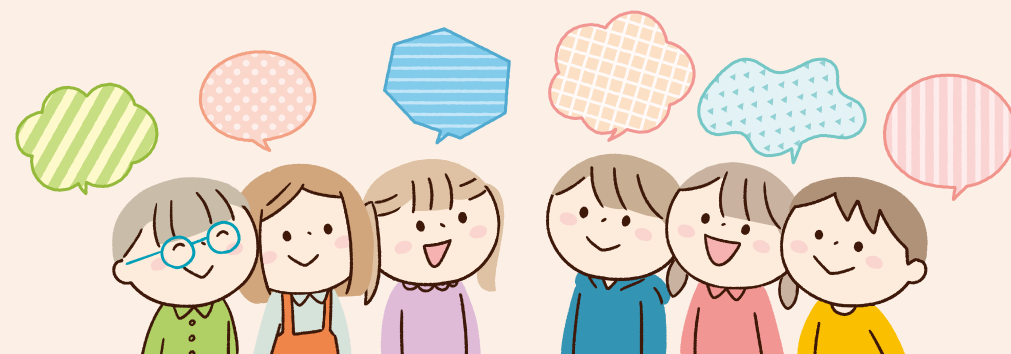
交流した人たちは、積極的に話しかけてくれました。またネパールの料理や日本とは違う街の景観、ネパールメンバーの活動など見聞きし、この体験を通して日本と他国の考え方の違いについて知ることができ、他の国により一層興味をもつことができました。



厚いおもてなしやユースがサプライズでホテルに来てくれるなど、ネパールの方々の温かさに感銘を受けました。日本の良さや課題を考えるきっかけとなり、学びの多い有意義な時間になりました。



国際平和に関して考えるきっかけとなりました。ネパールから持ち帰ってきたものをしっかり伝えて、今後に活かしていきます。



始めに、中川副小学校の人と交流することができました。
他にも熊本城に行つて、昔ながらの仕組みについて知ることができました。



今回の国内交流派遣事業で、中川副小学校の人と交流しました。
解説も分かりやすくて面白い人がたくさんいました。楽しかったです。



私が今日一番思い出に残ったのは、中川副小学校の5年6年生です。初めて会ったのに、とても明るく接してくれてうれしかったです。



私が国内派遣で学んだことは、友の愛です。中川副小学校の人は道をつくってくれたり、バスが見えなくなるまで手をふってくれたりしました。

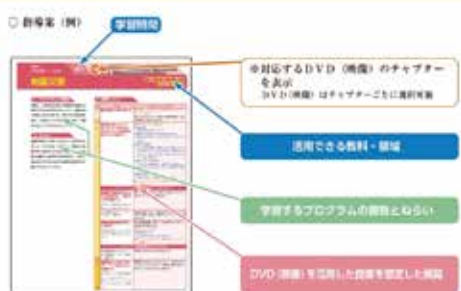
赤十字の防災教育プログラム

日赤は、1888（明治 21）年に発生した「磐梯山噴火災害」で初めて災害救護活動を実施して以来、これまで多くの災害で医療救護を行ってきました。日赤の防災教育は、子どもたちが主体的に取り組み、知識と行動力を身につけることができるだけでなく、他者への思いやりや優しさ、いのちの大切さを学び取る力を育むことができます。

園児から高校生まで、校種に応じた教材提供や、講師派遣を行っています。

活用方法1

授業で使用する



「まもるいのちひろめるぼうさい」

対象 小・中・高

自然災害に向き合ってきた日赤と現場の教員が開発・制作した「授業ですぐ使える防災教材」です。児童・生徒が防災について意欲的に学習に取り組めるよう、付属のDVD（映像）と連動した指導案とワークシートで構成されています。

授業への講師派遣も可能です

活用方法2

講師派遣を依頼して防災セミナーを開催する

これまでの災害救護活動において培ってきた経験や技術を、教育現場の防災教育にお役立ていただくため、採用校へ講師を派遣しています。

防災セミナー カリキュラムの例

● 講話 災害への備え（約 60 分） 対象 中学生以上

自然災害や感染症がもたらす様々な被害から、いのちを守り、その後の暮らしをつなぐために、平時から備えること（自助・共助）の重要性を学びます。

● 家具安全対策ゲーム（KAG）（約 45 分） 対象 小学校高学年以上

就寝中の家具による事故を防ぎ、家の中にけがの原因が潜んでいるという危機感を高めて、日常から備えるために登場したのが「KAG」。実際に自宅の平面図を描き起こし、家具の配置で危険な箇所を把握して、地震が発生したときに、自分や家族の命を守るためにはどういった対策が必要か、ゲーム形式で学んでいくプログラムです。



● 「ひなんじょ たいけん」（約 90 分） 対象 中学生以上

いつ起こるか分からない大規模災害を想定して、「避難者の目線」で避難所における「自助」と「共助」の力の向上を目的としたプログラムです。避難所に見立てた平面図と、世帯ごとに避難者の年齢や健康状態、被災状況が書かれたカード。5～7人のグループになって、避難所に見立てたカードを引きながら考えていきます。さまざまな出来事、課題にどう対応していくか、意見交換しながら気づきを深めることで「避難者」を疑似体験することができます。



活用方法3

学校行事やレクリエーションで活用

楽しみながら防災を学ぶことができる防災教材や、その他資材の貸出、映像資料の提供を行っています。

貸出教材

- ぼうさいまちがいさがし
きけんはっけん!
（対象：幼稚園・保育園）
- 防災すごろくゲーム
（対象：小学校中学年～）
- 防災カードゲーム
（対象：小学校低学年～）
- 段ボールベッド



映像資料

「おうちの中のモンスター」

いつやってくるか分からない大地震。実は、家の中にこそ大きな危険が潜んでいます。家族や身近な人たちと一緒に見ながら防災力を高めることができます。



「不安が見えなくなるメガネ」

災害時に働く 2 つの心理「正常性バイアス」「同調性バイアス」について理解を深めることができます。



防災教育プログラムのご相談やお申込みについては組織普及課青少年係までお問い合わせください。

問い合わせ先



043-241-7531



soshiki@chiba.jrc.or.jp

千葉県の青少年赤十字

青少年赤十字とは

青少年赤十字(Junior Red Cross, JRC)は、児童生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、様々な活動を学校教育の中で展開しています。

青少年赤十字の学校教育への採用推奨について

● 青少年赤十字の学校教育への採用推奨について各機関から依頼文が発出されました。

▶ 千葉県教育委員会 教育長から
令和7年1月27日付
各県立学校長
各市町村教育委員会教育長
各教育事務所長あてに発出

▶ 千葉県総務部 学事課長から
令和7年2月4日付
各私立学校長あてに発出

▶ 千葉市教育委員会 学校教育部教育指導課長から
令和7年1月20日付
各千葉市立小中高特別支援学校長あてに発出



千葉県マスコットキャラクター
チーパくん
千葉県許諾第A1562-10号

青少年赤十字の概況について

- 青少年赤十字は全国の幼稚園、保育所(園)、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の約14,416校で採用され、約350万人が活動しています。
- 千葉県では、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会の後援により行事を実施しています。
- 千葉県教育委員会及び総務部学事課、千葉市教育委員会から各学校の青少年赤十字の採用が推奨されており、県内の幼稚園、保育園を含んだ247校で、それぞれの実態に合わせて工夫した活動をしている仲間がいます。

※数字は令和6年3月31日現在

青少年赤十字の採用について

- 活動に役立つ学習資料・資材の提供が受けられます。青少年赤十字プログラム(中面)をご参照ください。
- 「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」に活用できる体験学習やボランティア学習、防災・減災学習等の指導者を無料で派遣することができます。
- 先生方を対象とした研修会、メンバーを対象とした職場体験等が受けられます。
- 採用することで、何らかの義務や強制を伴うようなことは、一切ありません。

